

※最新版は、

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。



特別支援教育リーフ Vol.16

子どもの話す「ことば」が 気になる先生へ



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

インターネットによる講義配信もあります。詳しくは「[NISE 学びラボ](#)」へ



子どもの思いや話の内容の理解に努めましょう

話しことばが気になる子どものなかには、友達や大人とコミュニケーションが円滑に進まず、学校生活や日常生活の中で、話すことに引け目を感じたり、話すことをあきらめてしまったりする子どももいます。例えば、子どもの発音がはっきりしない場合、話の内容ではなく、発音の不明瞭さばかりが注目され、周囲から不明瞭さを指摘されると、子どもは話す意欲や人に思いを伝えようとする気持ちが弱まり、話すことに自信を失ってしまう場合があります。

◆話の内容を最後まで聞くこと、そこで、何を伝えたいか汲み取ったり、理解したりすることが大切です。無理に言い直しをさせるのではなく、子どもの伝えたい気持ちを丁寧に受け止めることを大切にしましょう。

子どもの話す「ことば」が気になることがあります

担任にとって、子どもの話す「ことば」が気になることがあります。話す「ことば」が気になる子どもの中には、友達や大人とコミュニケーションが円滑に進まず、学校生活や日常生活の中で、子ども自身が話すことに引け目を感じたり、話すことをあきらめてしまったりすることがあります。そのため、周囲の人には、おとなしい子どもとして認識されやすいですが、もしかすると本人にとっては、話すことに苦手意識や劣等感があり、本当に困っている状況を理解されないことがあります。

発音が気になる子どもへの配慮

Aさんは、友達とおしゃべりをしたり、授業中に発表したりする時に「サ行」が「タ行」（「せんせい」→「てんてい」）に置き換わってしまいます。周囲の友達からは、「『て』じゃなくて、『せ』だよ」、「もう一度、ちゃんと言ってみなよ」と指摘されてしまうことがあります。Aさん自身は、気にしている様子は見られませんが、担任としては、Aさんがうまく発音できないことばがあり、周囲から指摘されることが続くとAさんが困るのではないかと心配になります。

このような場合、担任は、Aさんの発音にだけ注目するのではなく、話の内容を最後まで聞き、何を伝えたいかを理解することが大切です。担任のAさんの話を聞く姿勢は、学級の子どもたちにとって良いモデルになります。また、Aさんの発音がはっきりせず、周囲に伝わりにくい場合には、担任が、Aさんの発言を復唱したり、黒板に書いたり、選択肢を用意したりして、Aさんの気持ちや伝えたいことを理解し、周囲に伝えることが大切です。

Aさんの発音が気になる場合は、校内の特別支援教育コーディネーターに相談し、保護者の理解を得ながら、言語障害特別支援学級及び言語障害通級指導教室（以下、「ことばの教室」とする）に相談し、Aさんにとって必要な指導を一緒に考えていきましょう。



ことばがスムーズに出にくい子どもへの配慮

Bさんは、友達と一緒に九九を唱える時はスムーズに言えるのですが、一人で唱える時は、「さ・さ・さ・さ、さんいちが、さん」のように、最初のことばを繰り返し、スムーズにことばが出にくいことがあります。担任が「落ち着いて」「慌てないで」「ゆっくりでもいいから」と伝えますが、逆に緊張して体全体に力が入り、よりことばがスムーズに出にくくなります。そして、最近では、Bさんは、授業中に発表することに対して、どんどん自信を無くしているようです。また、Bさんの話し方を真似る友達もいて、その都度、担任が注意していますが、担任はどのようにBさんを支えていいか悩むことが増えています。

Bさんは、話す時に同じことばを繰り返したり、出にくかったりするため、人と話すことに対して、苦手意識を日常的に感じています。特に、授業中に、一人で発表する時は、「また、ことばがつかえたらどうしよう」と不安になるためか、余計に緊張感が増して、ことばが出にくくなるようです。ことばが出にくい時に、担任が「落ち着いて」、「ゆっくり話してごらん」とアドバイスしても、Bさんにとっては不安や緊張を高めてしまうことがあります。

担任は、Bさんの話を最後まで聞き、伝えたい気持ちを理解することが大切です。Bさんの話し方に注目し、話を途中で遮ったり、言い直しをさせたりするのではなく、話そうとしている内容や思いを汲み取りながら、かかわるようにしましょう。また、Bさんが、授業中に発表することに不安を抱えている場合には、個別に相談する機会をつくり、どのような方法なら不安を軽減できるか作戦会議等（図1）を開いて、一緒に考えてみましょう。Bさんの思いを聞いたり、一緒に考えたりすることで、Bさんにとって良い方法（例：「友達と一緒に音読する」、「事前に発表する場所を確認する」、「ことばが出るまで待ってもらおう」等）を探していくことが大切です。

| 23 | | まいにち せいかつ こま | | さくせんかい | |
|---------------------------------------|--------|--------------|--|--------|--|
| 毎日の生活で困っていることの作戦会議 | | | | | |
| 困っていること | | | | | |
| 詳しく説明すると…… | | | | | |
| いつ? どこで? 誰と? 何を? どのように? どうして? どんな気持ち? | | | | | |
| どうしたい? | | | | | |
| 一番の理想…… | | | | | |
| できればこれくらいは…… | | | | | |
| 最低限これだけは…… | | | | | |
| そのための方法 | | | | | |
| どこで | 誰が(誰に) | 何を | | | |
| ことばの教室 | | | | | |
| 家庭 | | | | | |
| 学校 | | | | | |
| その他 | | | | | |

図1. 毎日の生活で困っていることの作戦会議
参考資料：吃音ポータルサイト

Bさんと一緒に考えていく中で、Bさんの得意なことや好きなことを担任や友達と一緒に楽しむことも、Bさんの新たな一面を知ることのできる大切なかわりになります。

話している「ことば」が気になる子どもと出会った時に

子どもの話す「ことば」が気になり困った時には、一人で悩まず、地域の「ことばの教室」等に相談してみましょう。特別支援教育コーディネーター等から連絡先を確認し、保護者の同意を得た上で、「ことばの教室」の担当者に、子どものことを相談してみましょう。そして、「ことばの教室」の担当者と協働しながら、担任、保護者、それぞれの立場について理解し、それぞれの利点を活用して、子どもを支える関係を築きましょう。

☆さらなる理解のために☆

子どもが抱える話しことばの課題

学校生活や日常生活で、子どもたちが感じることばの問題の大きさや特徴は、どれだけことばがうまく話せないのか（X軸）ということだけでは決まりません。話を聞く人の態度（Y軸）や、自分の話し方をどれくらい気にしているか（Z軸）ということも大きく関係してきます（図2）。話すことがうまくいかない子どもでも、周りの人が子どもの話し方を受け入れてくれて、じっくりと聞こうとしてくれる状況と、「なんだ、その話し方は」とまったく聞こうとしてくれない状況とでは、不便さが違います。さらに、自分の話し方が気になって

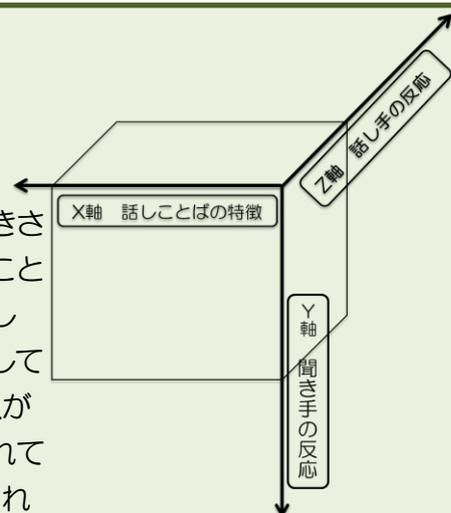


図2. ジョンソンの言語関係図 (1950)

しかたがない子どもと、「自分の話し方は、これでいいのだ」と思っている子どもでは、子どもが抱える話しことばの課題の大きさは異なるといえます。つまり、子どもが抱える話しことばの課題は、子どものことばの問題だけでなく、話す子どもと聞く人がお互いに、言いたいことや気持ちを汲み取り合えるかどうか、聞く人も含めた、お互いのコミュニケーションの問題でもあります。

<参考情報>

○金沢大学人間社会研究域学校教育系 [小林宏明のホームページ](#) [吃音ポータルサイト](#)

吃音のある子どもが、学校でどのようなことに困っているかについて動画等を踏まえて、わかりやすく記載されています。また、具体的な教材、吃音のある小学生等のつどい等の取組が紹介されています。



○国立特別支援教育総合研究所 [「ことばの教室」ことはじめ](#)

初めてことばの教室を担当する先生向けに Q&A 形式でわかりやすくポイントを絞って解説してあり、ことばの教室や通っている子どもたちへのかかわりについて知ることができます。



<参考文献>

○中川信子、阿部厚仁、[ことばの不自由な人をよく知る本](#)、合同出版、2023。

ことばの不自由な人について全般的に、写真やイラストを踏まえてわかりやすく解説されています。

○牧野泰美、阿部厚仁、[ふしぎだね！？言語障害のおともだち](#)、ミネルヴァ書房、2007。

言語障害のある子どもが、学校でどのようなことに困っているかがわかりやすく記載されています。

